

令和 4 年度
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
業務実績等報告書概要

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

第三期中期計画

～これまで培ってきた技術・知見を活用し全都的な取組を展開～



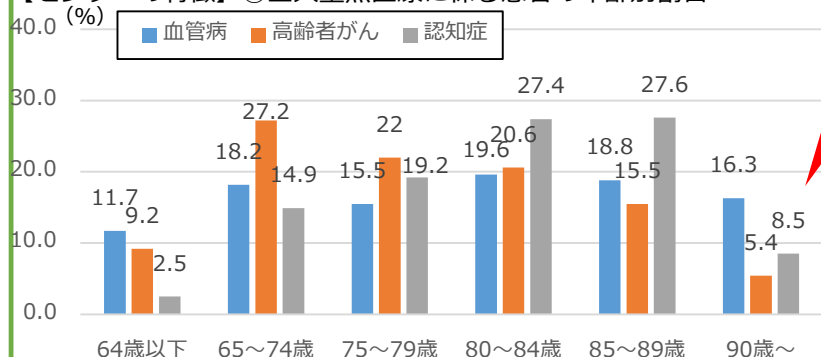
【重点方針】 (計画期間：平成30年度から5年間)

- ① 高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及
- ② 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究
- ③ 医療と研究が一体となった取組の推進
- ④ 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成
- ⑤ 業務内容の改善及び効率化
- ⑥ 財務内容の改善等

令和4年度の業務実績等

～年度計画を概ね達成し、第三期中期計画の達成に向けた取組を進めることができました～

【センターの特徴】 ①三大重点医療に係る患者の年齢別割合



全ての疾患で65歳以上の割合が約9割、80歳以上の割合は約半数を占める

(※) 血管病、高齢者がんについては、DPCデータに基づき、それぞれ血管病、高齢者がんの対象となる入院患者の割合。認知症については、もの忘れ外来を受診した患者の割合

②入院患者の担送・護送・独歩割合

種別	割合	定義
担送	43.7%	ストレッチャーなどを使用して、2人の介助者が必要
護送	36.5%	車椅子などを使用して、1人の介助者が必要
独歩	19.8%	自力で歩ける、介助者なし

介助の度合いが高い患者の割合が約8割である

こうした状況にも適切に対応し、都の高齢者医療及び研究の拠点としての取組を加速

→ 年度計画を概ね達成するとともに、第三期中期計画の達成に向けた取組を進めることができました。

自己評価結果

事項	項目数	S	A	B	C	D
高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及	9	1	8	0	0	0
高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究	4	2	2	0	0	0
医療と研究が一体となった取組の推進	1	1	0	0	0	0
高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成	1	0	1	0	0	0
業務内容の改善及び効率化	2	0	1	1	0	0
財務内容の改善等	3	2	1	0	0	0
合計	20	6	13	1	0	0

〈評価S・Aの主な項目〉

【病院部門】

- ・三大重点医療（血管病医療、高齢者がん医療、認知症医療）への取組 (A)

・医療の質の確保・向上 (A)

- ・救急医療 (S) など

【研究部門】

- ・高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究 (S)
- ・高齢者の地域での生活を支える研究 (A)
- ・研究推進のための基盤強化と成果の還元 (S)
- ・医療と研究が一体となった取組の推進 (S) など

【経営部門】

- ・コスト管理の強化 (A)
- ・法人運営におけるリスク管理の強化 (S) など



1. 三つの重点医療を始めとする提供体制の充実

○病院部門においては、新型コロナウイルス感染症に適切に対応するとともに、**三大重点医療の提供など、年度計画に定める取組を適切に実施した。**

①血管病医療 **評価A** (R3自己評価:A)

地域の急性期患者を積極的に受け入れ、高齢者に最適な治療を提供

【主な取組】

- ・経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI/TAVR) **24**件 (令和3年度 13件)
- ・補助循環用ポンプカテーテル (IMPELLA) **3**件 (令和3年度 5件)
- ・カテーテルアブレーション治療 **40**件 (令和3年度 44件)
- ・ペースメーカー等植込みデバイス件数 **93**件 (令和3年度 84件)
- ・脳動脈瘤コイル塞栓術 **16**件 (令和3年度 27件)
- ・頸動脈ステント留置術 **14**件 (令和3年度 12件)



【TAVI】

②高齢者がん医療 **評価A** (R3自己評価:A)

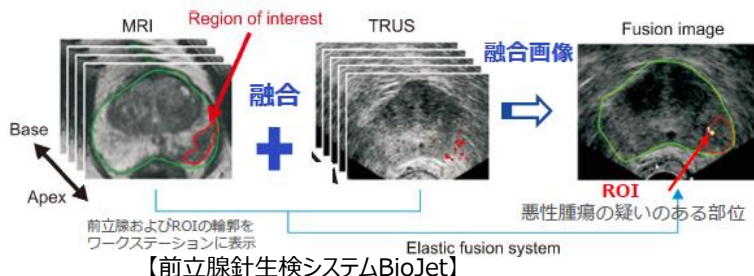
正確かつ低侵襲な検査・治療一層推進するなど、**高齢者の状態に合わせた最適ながんを医療の提供**

【主な取組】

- ・肝胆膵高難度手術 **13**例 (令和3年度 13例)
- ・NBI内視鏡検査 (消化器がん) **563**例 (令和3年度 343例)
- ・内視鏡下粘膜下層剥離術 (ESD) **116**例 (令和3年度 84例)
- ・内視鏡的粘膜切除術 (EMR) **703**例 (令和3年度 663例)
- ・内視鏡的逆行性胆道膵管造影術 (ERCP) **272**例 (令和3年度 162例)
- ・MRI及びエコー融合画像に基づく**前立腺針生検**を新たに導入 (令和4年度 (12月～) **32**例) (区西北部初、都内6施設目)
- ・放射線治療器を活用し、高齢者に対する高精度放射線治療を実施 (**放射線治療を123例、140部位**に実施 (令和3年度 102例、121部位))
うち80～89歳は45例 (36.6%)、90歳以上は12例 (9.8%)



【ハイブリッド手術室での治療】



【放射線治療 (リニアック)】

③認知症医療 **評価A** (R3自己評価:A)

もの忘れ外来において、認知症の精査・原因診断と治療を実施するなど、認知症未来社会創造センター (IRIDE) と一体となり取組を推進

④生活機能の維持・回復のための医療 **評価A** (R3自己評価:A)

入院患者の早期退院に向けた支援や、高齢者特有の疾患に対する外来でのケア等、**「治し支える医療」**に向けた取組を実施

【主な取組】

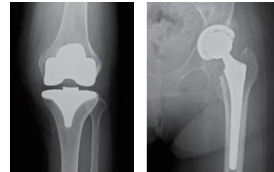
- ・ICUにおいて、早期に経腸栄養等の栄養管理を実施し、早期離床・在宅復帰を推進
早期栄養介入管理加算算定 **1,050**件 (令和3年度 425件)
- ・高齢者特有の整形外科的疾患に対応するため、人工関節外来・脊椎外来、骨粗鬆症外来にて検査・治療を積極的に実施
人工関節手術 **152**件 (令和3年度 142件)
- ・糖尿病看護認定看護師による糖尿病看護外来を毎日実施し、従来のフットケアの他、インスリン注射導入、CGMやインスリンポンプなど複雑な検査・治療を提供
- ・ストマ外来では、臨時で患者を受けるなど、ニーズに柔軟に対応



【持続血糖モニタリング (CGM)】



【糖尿病看護外来】



【人工関節】

⑤医療の質の確保・向上 **評価A** (R3自己評価:B)

高齢者に特化した医療の提供に向けて、研修等の計画的な実施や専門資格の取得を推進などの人材育成を実施

【主な取組】

- ・看護師の育成を計画的に実施し、新たに認定看護師4名 (嚥下障害看護2名、がん化学療法看護1名、感染管理1名) が修了【フレイルサポートナース】
- ・特定行為研修 (在宅・慢性期領域) を1名が修了
- ・臨床工学技士の厚生労働省のタスクシフト/シェア研修について、15名 (令和4年度入職職員以外の全常勤職員) が修了し、ペースメーカー治療補助や血液浄化療法の穿刺等、新たな業務に対応
- ・「フレイルサポートナース育成研修」を院内で実施 (計17名)



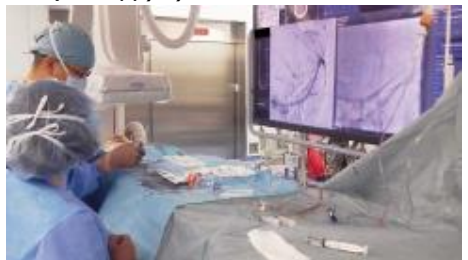
2. 地域医療の体制の確保

①救急医療 評価S (R3自己評価：S)

東京都CCUネットワーク、急性大動脈スーパーネットワークへの参画医療機関及び脳卒中急性期医療機関Aとして、**高齢救急患者の受入を実施**

【主な取組】

- ・SCUを活用し、急性期脳卒中患者に対し、適切な医療を提供 SCU稼働率93.6% (364件) (令和3年度 96.2% (409件))
- ・急性大動脈スーパーネットワーク受入件数 22例 (令和3年度 27件)
- ・CCUネットワーク受入件数 132件 (令和3年度 63件)
- ・東京ルール搬送患者受入数 291件 (令和3年度 193件)
- ・コロナ禍においても、救急患者の受入れに向けた個室の積極的な確保や円滑な退院支援を通じ、年度計画に定める救急患者受入数の目標値を達成 (救急患者受入数 10,336件 (令和3年度 10,339件))
- ・令和5年1月、集中治療専門医研修施設として認定を受け、若手医師の育成を推進



【脳血管治療】

②地域連携の推進 評価A (R3自己評価：A)

地域医療機関等からの紹介受入・逆紹介の強化等、**地域と連携した医療体制の整備**を推進

【主な取組】

- ・地域医療連携システム (C@RNA) の受診予約可能診療科や大型医療機器の検査予約枠拡大に努めるとともに、連携医療機関に対し、オンライン検査・初診予約の利用促進に向けた訪問活動を強化
初診web予約183件 (令和3年度 3件) 高額医療機器の共同利用 1,064件 (令和3年度 792件)
- ・紹介率 72.0% (令和3年度 70.7%)、逆紹介率 88.9% (令和3年度 82.2%)
- ・在宅療養患者や高齢者施設等における褥瘡等の相談に特定行為研修修了看護師が対応し、地域の医療の質向上に努めた



【皮膚・排泄ケア認定看護師】

3. 医療安全対策の徹底

医療安全対策の徹底 評価A (R3自己評価：A)

院内の事故等の情報集約・分析・共有等、**医療安全、感染防止対策を一層強化**

【主な取組】

- ・インシデント・アクシデントレポートの分析、事例検討を引き続き行うとともに、老年症候群である転倒・転落については患者・家族に転倒転落予防についての理解を求めるため、入院患者向け説明書を改訂する等、転倒・転落予防をさらに推進 (右表参照)
- ・都の補助金を活用しながら、新たなPCR検査機器を導入し、院内検査体制を拡充
- ・コロナ禍によりニーズが高まっている带状疱疹ワクチンの接種対象について、膠原病・リウマチの治療だけでなく、主治医が必要と判断するものへと拡大

年齢区分	転倒・転落率
69歳以下	0.28%
70歳～79歳	0.34%
80歳～89歳	0.48%
90歳以上	0.39%
年間	0.40%
全国中央値	0.46%

※全国中央値は、厚生労働省「医療の質の評価・公表等推進事業」報告書参照

4. 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

患者中心の医療の実践・患者サービスの向上 評価A (R3自己評価：A)

ご意見箱や患者満足度調査の結果等を踏まえた取組の実施等により**患者・家族に寄り添う医療を提供**

【主な取組】

- ・ご意見箱や患者満足度調査の結果等を踏まえ、渋沢記念コーナーへのフリーWi-Fi設置、入院レンタルセットの開始などにより、患者及びその家族の利便性と快適性を向上
- ・外来エリアの診察順番表示モニターを活用して、水頭症外来や老年学・老年医学公開講座のご案内、新型コロナウイルスに関する様々な注意喚起などを表示し、積極的な情報発信に努めた



【Wi-Fi設置した渋沢記念コーナー】 4

地域医療

医療安全

患者サービス



① 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究 **評価S** (R3自己評価：S)

がんの治療や転移の抑制、老化制御や健康維持等に関わる研究を推進し、老年疾患・老年症候群の克服に向けて取り組んだ

【主な取組】

- ・ビタミンC不足は、雌雄など性別に関係なく骨格筋の萎縮や身体能力の低下をもたらすことを明らかにした(図1)

《掲載誌》Biology

《英文表題》Vitamin C Is Essential for the Maintenance of Skeletal Muscle Functions

- ・ヒト線維芽細胞が複製老化に至る過程では、ミトコンドリア機能は維持され、活性酸素種の過剰産生も起らないことを明らかにした(図2)

《掲載誌》Experimental Gerontology

《英文表題》Temporal changes in mitochondrial function and reactive oxygen species generation during the development of replicative senescence in human fibroblasts

- ・ミトコンドリア超複合体の「見える化」技術を開発し、それを活用することで、脾臓チロシンキナーゼ(SYK)を抑える薬物がマウスにおいて筋肉の運動能力の向上をもたらすことを明らかにした

《掲載誌》Nature Communications

《英文表題》A FRET-based respirasome assembly screen identifies spleen tyrosine kinase as a target to improve muscle mitochondrial respiration and exercise performance in mice

② 高齢者の地域での生活を支える研究 **評価A** (R3自己評価：A)

高齢者を支える地域づくりに向けて、**多世代間の交流や地域における高齢者支援等に関わる研究を推進**

【主な取組】

- ・中高強度身体活動・多様な食品摂取・社会交流行動を組み合わせる実践するほど、**要介護化(要支援・要介護状態の新規発生)リスクが大きく低減**することを明らかにした(図3)

《掲載誌》Journal of Epidemiology

《英文表題》Combined Impacts of Physical Activity, Dietary Variety, and Social Interaction on Incident Functional Disability in Older Japanese Adults

- ・後期高齢者の歯科受診は肺炎や脳卒中発作、尿路感染症といった**全身疾患による急性期の入院発生に対して予防効果がある**ことを明らかにした

《掲載誌》Archives of Gerontology and Geriatrics

《英文表題》The effect of dental visits on the occurrence of acute hospitalization for systemic diseases among patients aged 75 years or older: A propensity score-matched study

- ・多世代交流を促す地域介入により、地域レベルでの**ソーシャルキャピタル(社会的信頼、互酬性の規範)の改善が認められた**ことを明らかにした

《掲載誌》BMC Public Health

《英文表題》Nemoto Y et al. Effects of intergenerational contact on social capital in community-dwelling adults aged 25-84 years: a non-randomized community-based intervention

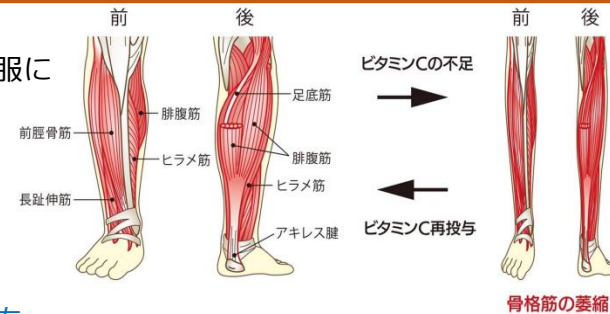


図1【骨格筋でビタミンCが不足すると、性別に関係なく、骨格筋の萎縮や身体機能の低下をもたらす。また、ビタミンCの再投与により回復する。】

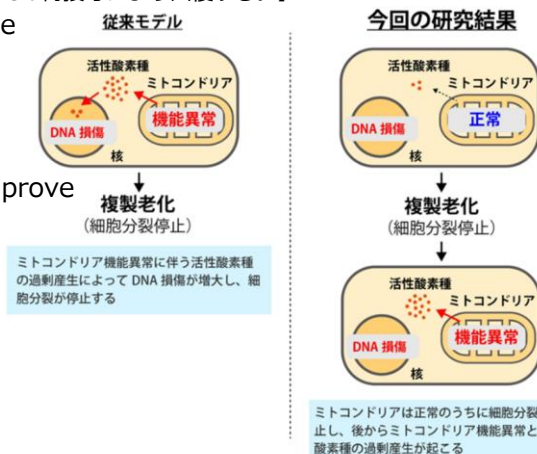


図2【複製老化とミトコンドリア機能異常・活性酸素種の関係】

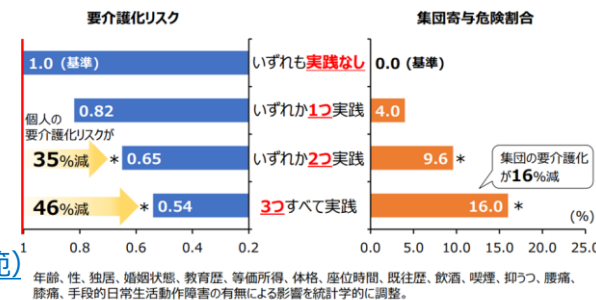


図3【身体活動・多様な食品摂取・社会交流行動の充足数別の要介護化リスクと集団寄与危険割合】

③老年学研究におけるリーダーシップの発揮 **評価A** (R3自己評価：A)

他の研究機関と連携した次世代医用技術の推進等、**都における老年学研究の拠点としてリーダーシップを発揮**

【主な取組】

- ・令和2年度以降、コロナ禍により中止となっていた東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合（TOBIRA）が主催する研究交流フォーラムが3年ぶりに開催され、[基調講演（題目：認知症未来社会創造センター）](#)のほか、[研究成果14件のポスター発表](#)を実施

④研究推進のための基盤強化と成果の還元 **評価S** (R3自己評価：S)

当センター病院部門の臨床試験、および研究部門の老年学研究を推進していくため、HAICを中心に**研究を支援する専門人材の育成**を進め、当センターだけでなく**外部研究機関や企業等の共同研究開発を積極的に推進**

【主な取組】

- ・治験審査委員会（IRB）、認定臨床研究審査委員会（CRB）などの委員会を適切に運営することにより、当センターで実施している[研究の質や安全性を確保](#)するとともに、CRBにおいては都立病院などの研究支援も実施（審査件数：[68件](#)（院内[9件](#)、院外[59件](#)（うち都立病院[50件](#)））
- ・科学研究費等への積極的な応募、さらに適切に企業等の受託研究や共同研究を推進することにより、[外部獲得研究費の総額が過去最高を記録](#)
【科研費新規採択率：[47.6%](#)（[全国4位](#)）（令和3年度37.6%）、外部資金獲得金額：[1,131,140](#)千円（令和3年度1,063,928千円）】

令和4年度の主な実績（TR部門）～医療と研究が一体となった取組の推進～

1. 医療と研究が一体となった取組の推進 **評価S** (R3自己評価：S)

①トランスレーショナル・リサーチの推進

HAICにおいて実用化研究を重点支援し、産学公連携を推進する等、**老年学・老年医学に係る高い研究成果を創出**

【主な取組】

- ・医療と研究が一体となった取組であるトランスレーショナル・リサーチの推進として、令和3年度からの[継続課題4件を支援](#)（①「顔で認知症をスクリーニングする安定したAIモデルの開発」②「タウ毒性検出および中和抗体の作成」③「口腔機能評価を包含した高齢者身体的データに基づく～オーラルフレイル重症度診断システムの開発に向けた調査研究～」④「高齢者の非感染性炎症の緩和を目的とした水素治療の開発研究」）

〈認知症支援の推進に向けた取組〉

医療従事者への認知症対応力向上支援、大都市認知症支援体制モデル開発等、**地域における認知症支援体制の構築**に貢献

【主な取組】

- ・島しょ部を含む東京都全域を対象地域として、[認知症医療・ケアに携わる専門職の育成](#)を目的とした研修会の企画運営を実施（実施回数：16回（令和3年度：17回））（新型コロナウイルス感染拡大防止のため[オンラインで実施](#)）

〈介護予防・フレイル予防の推進及び健康の維持・増進に向けた取組〉

介護予防・フレイル予防に取り組む区市町村への支援や、高齢者特有の疾患に対する外来でのケア等、**地域における介護予防・フレイル予防支援体制の構築**に貢献

【主な取組】

- ・区市町村・地域包括支援センター職員等に対する人材育成として、多様で高機能化した通いの場について「総論編」1回、「実践編I」：地域づくりによる介護予防研修4回、「実践編II」：多様性・機能強化研修6回、介護予防・フレイル予防推進員研修4回に加えて、自治体の進捗報告の場として実践報告会を1回実施し、[計965名](#)が受講



①TOKYO健康長寿データベースの構築

- ・データベース(オンプレミス環境)に病院・研究所の過去データを格納し、センター内での研究・解析できる環境を整備
- ・前向き研究(バイオバンク、DEMCIRC研究)を開始し、データを集積するとともに、企業との共同研究を開始

②メディカルゲノムセンター

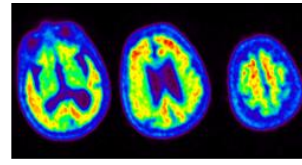
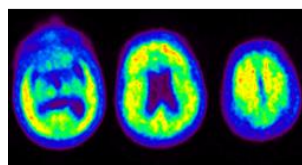
- ・TOKYOメディカルバイオバンクを整備し、未来型研究開発に対応した生体試料の蓄積を推進
- ・既存のバイオマーカー及び新規のバイオマーカー測定系を立ち上げるとともに、企業との共同研究を開始

③AI診断

- ・AIによるMRI診断支援システム開発では、検出した微小出血部位の同定を可能とした
- ・アミロイドPETの診療実装を視野に、診断補助と定量解析を行うソフトを複数の企業との共同研究で開発し、いずれも薬事承認を取得
- ・チャットボット開発においては、音声認識を向上するとともに、自然な会話が途切れないよう季節や地域などの話題を自発的に発するようにした

④地域コホート

- ・認知機能の変化をアウトカムとしたデータを分析することで認知機能低下のリスク要因を明らかにした
- ・要介護認知症発生をアウトカムとした統合データセットの作成・分析及び地域包括支援センター等職員向けの簡便な認知機能低下者のスクリーニングツール(Abe et al. 2022)の実装に向けて、都内を中心に同職員に対するニーズ等の調査を進めている



【アミロイドPET】



【チャットボット】

①フレイル診療ネットワーク構築とフレイル外来の機能強化

- ・フレイル外来を1年間で947名の患者が受診し、フレイル評価を実施
- ・フレイル外来におけるフレイルに関する研究論文を国際誌に5編発表

②フレイルサポート医の育成

- ・東京都医師会等と連携し、フレイルサポート医研修を年2回実施し、99名がフレイルサポート医として認定
- ・「フレイルサポート医のための疾患治療マニュアル」を当センター編集し、日本老年医学会監修にて出版

③フレイルをサポートするコメディカルの育成

- ・東京都栄養士会との連携により、フレイルサポート栄養士研修を実施し、34名が受講(うち24名がフレイルサポート栄養士として認定)
- ・「フレイルサポートナース養成研修」のための教材及び研修動画を制作し、研修実施・認定を行った



【マニュアル】

④地域との連携

- ・健康づくり事業推進指導者育成研修、介護予防主任運動指導員養成事業、高齢者の保健事業に関わる医療専門職の人材育成研修事業(東京都受託事業)、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターによる自治体職員の研修と伴走的支援(東京都受託事業)などを実施

- ・スマートウォッチ事業を行うにあたり、新たに調査対象とした千代田区と包括連携協定を締結
- ・使用するスマートウォッチ等ウェアラブルデバイスの妥当性を検証し、機器を選定・購入
- ・地域在住高齢者(板橋区・千代田区)及び当センターフレイル外来通院患者等約1,150名に対し、ウェアラブルデバイス(スマートウォッチ・歩行能力計)を配布し活動量や睡眠状態、脈拍、会話時間等のデータを収集中
- ・対象者へのフィードバックとして、スマートウォッチ等と連携したアプリケーションの開発に着手

TDK Silmee™ W22



【スマートウォッチ】

1. 消費カロリー(活動量、歩数)
2. 睡眠時間・状態
3. 脈拍数(PPI:脈波間隔)
4. 会話時間
5. 皮膚温度
6. 紫外線量



【アンクルバンド型歩行速度の歩行能力計】



1. 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

人材育成

① 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成 **評価A** (R3自己評価：A)

大学等での講義、講演やセミナー等をオンラインで実施するなど、**次世代の高齢者医療・研究を担う人材を育成**

【主な取組】

- ・「東京都健康長寿医療研修センター」を新設し、各部門が実施する研修・実習の一元管理により、対外的な発信力を強化
- ・東京都医師会や東京栄養士会等と連携し、フレイルサポート医及びフレイルサポート栄養士研修を実施（P.7参照）



【フレイルサポート医研修の様子】

2. 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

業務運営

① 地方独立行政法人の特性を活かした業務改善・効率化 **評価A** (R3自己評価：A)

働き方改革の推進に向けたライフ・ワーク・バランス確保、タスクシフティングの推進など、**効率的・効果的な業務執行に向けた取組を推進**

【主な取組】

- ・医師事務作業補助者が検査予約・オーダーの入力や検査説明を行うことで、業務の効率化と生産性向上を推進
- ・内視鏡室や血管外科等の治療補助に臨床工学技士を配置し、医師の診療補助をすることで負担軽減を推進



【臨床工学技士による治療補助】

② 適正な法人運営を行うための体制強化 **評価B** (R3自己評価：B)

各種監査や研修会の実施等により、**センター運営の透明性・健全性を確保**

【主な取組】

- ・全職員を対象とした悉皆研修（5年に1度の受講）として、コンプライアンス研修を開催し、209人の職員が受講
- ・研究費不正使用が発生するリスクを洗い出し、不正が発生する要因を把握するため、不正防止計画推進部署によるモニタリングを実施し、特に課題と考えられた点について、監査所管部署が監査を実施

3. 財務内容の改善に関する事項

財務改善

① 収入確保 **評価S** (R3自己評価：S)

診療報酬の適切な算定や外部資金の獲得強化により、**収入確保に向けた取組の一層強化**

【主な取組】

- ・新型コロナ患者の受入れに当たり手厚い看護体制を整備し、臨時的な取扱いによる「ハイケアユニット入院医療管理料2」を算定して収益を確保することなどにより、令和4年度収支の大幅な黒字化を達成（営業利益 1,690,371千円）
- ・公的研究費への応募や産学公連携活動を推進し、多額の外部資金を獲得

② コスト管理の体制強化 **評価A** (R3自己評価：A)

支出の削減に向けた案の検討・実施等により、**一層のコストの削減を推進**

【主な取組】

- ・エネルギー価格の高騰により、水道光熱費が対前年度比約2.4億円増加するなど厳しい経営状況にある中、①放射線機器の保守費用について、複数機器での包括契約の導入②材料費について、引き続きベンチマークシステムを活用した効果的な価格交渉の実施などにより、可能な限り支出を抑制

4. 法人運営におけるリスク管理の強化

法人運営

① 法人運営におけるリスク管理の強化 **評価S** (R3自己評価：S)

災害対策訓練、安全な職場環境の整備、情報セキュリティ強化等により**危機管理体制を強化**

【主な取組】

- ・緊急医療救護所設置のためのテント設営訓練や危機管理マニュアルに基づいた災害対策本部の設置・運営訓練などを実施
- ・サイバー攻撃による被害防止に備え、リモートアクセスで使用するルーター等機器の脆弱性対策として、最新のファームウェアへの更新がなされていること並びに更新情報の入手手段について確認



【災害時応急救護所用テント設営訓練】

参考資料：令和4年度の主な数値実績①（病院部門）



表1

入院患者数と入院単価の推移

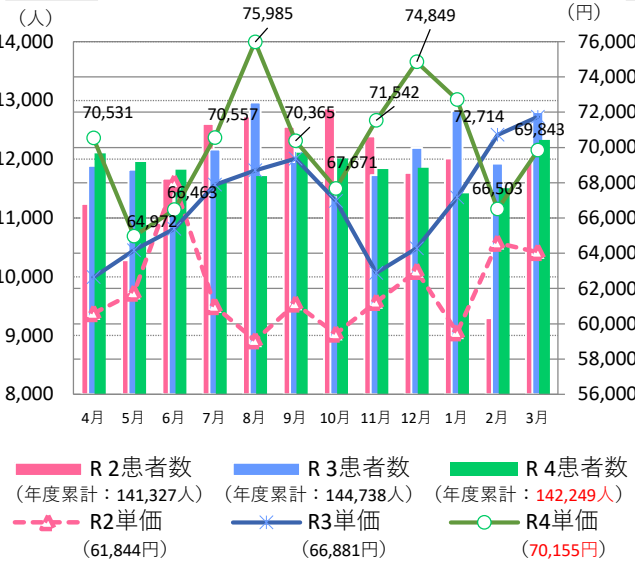


表2

外来患者数と外来単価の推移

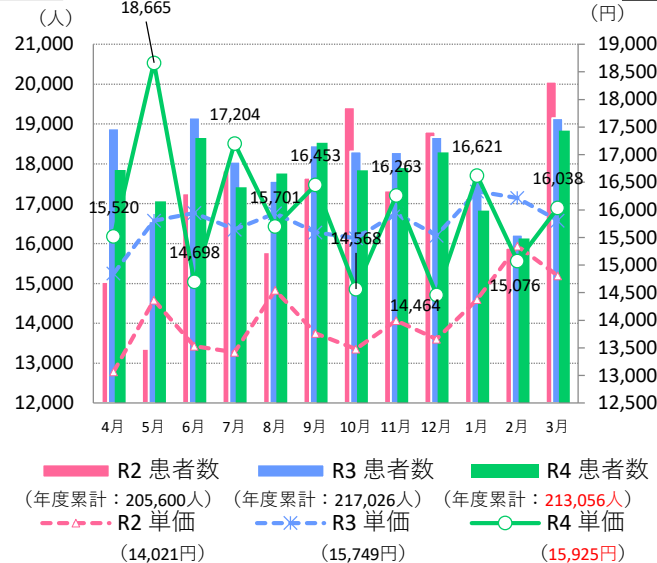


表3

医業収益及び医業費用について

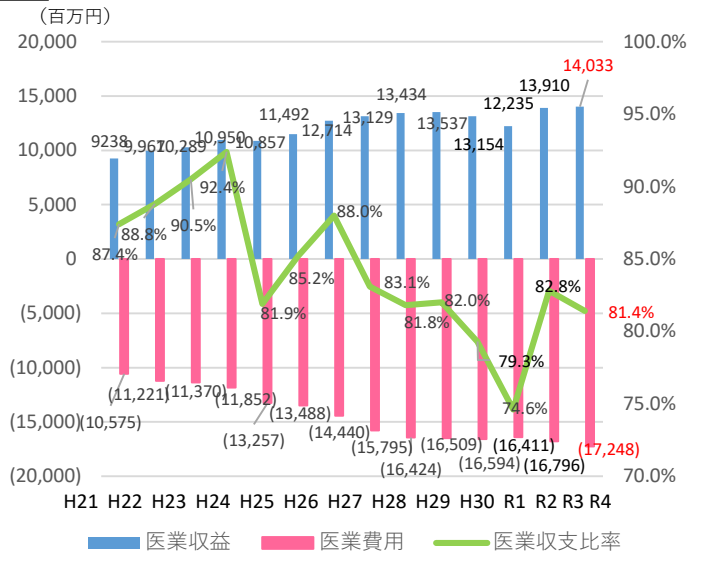


表4

病床利用率の推移

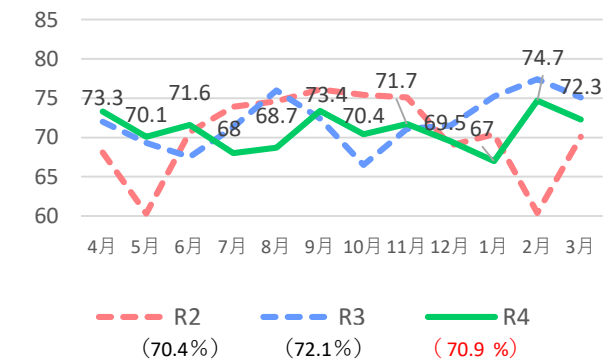


表5

平均在院日数の推移 ※病院全体

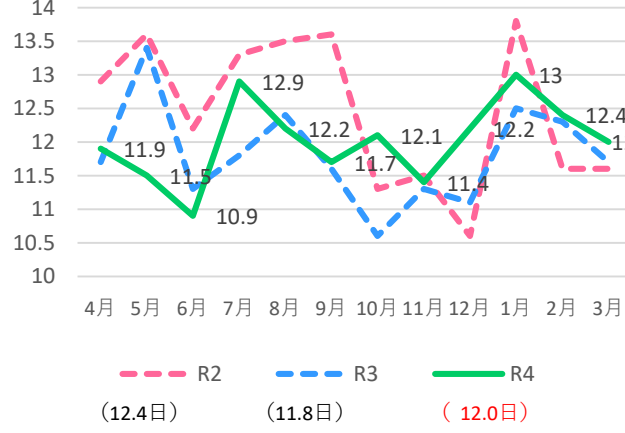


表6

救急患者総数

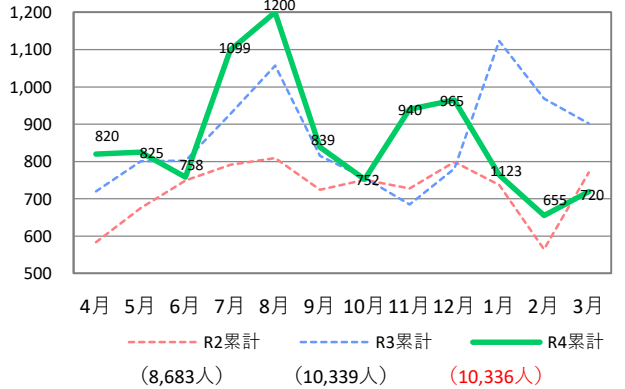




表7

学会・論文発表件数

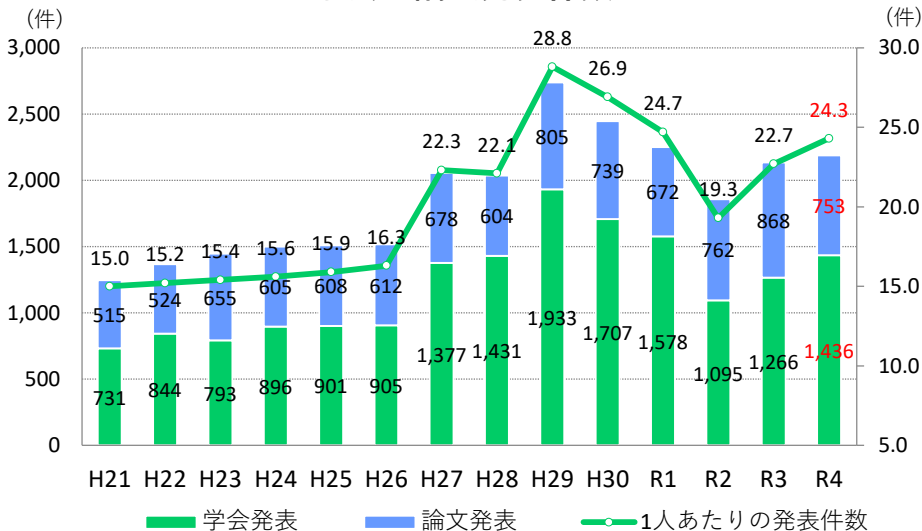


表8

外部資金獲得額

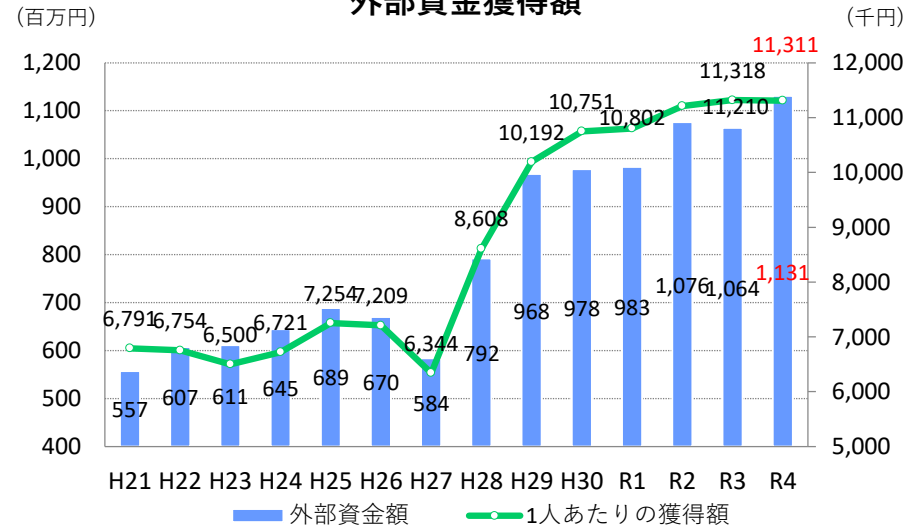


表9

科学研究費等獲得額・件数

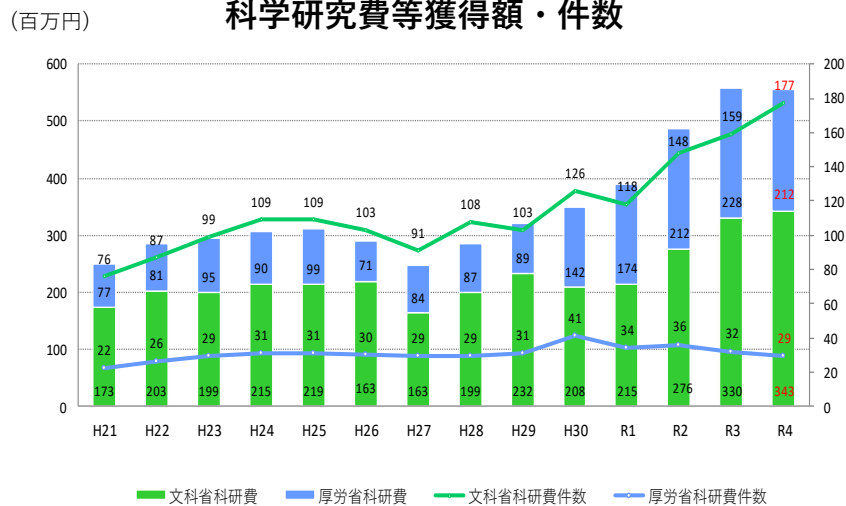


表10

受託研究等の受入金額

